

2011年8月9日

報道関係各位

社団法人日本能率協会
 経営研究所

シナプスな考察 Vol.1

経営研究所のマネジメントに関する調査・研究をもとに、研究員の考察・意見をお届けします

就職活動の準備に際して持っておきたい視点 ～自己分析と企業研究を始める前に～

日本能率協会は、小会が提供する新入社員向けセミナーの参加者を対象に、「会社や社会に対し、どのような意識や価値観を持っているか」の調査を毎年行っています。大学生の就職活動が本格化する秋を前に、2011年度4月の調査から浮かび上がった「シューカツの心得」をご紹介します。

1. 自己分析は「ありのままの自分」をきちんと知り、伝えるために行う

日本能率協会の2011年度新入社員意識調査では、就職に関する問いをいくつか尋ねている。その中で「内定を取るために最も重要だと思うことは何か」と設問の自由回答を集計したのが下の表であるが、ここではコメントに現れた言葉から「自己分析」は何がポイントかを考えてみたい。

回答の中には「ありのままの自分を出すこと」、「自分らしさを出し、無理にかざらないこと」というコメントが散見された。「自分らしさ」とはこれまでの経験の中で自分がとってきた行動・志向のベースとなる部分である。たとえばこれまでに「楽しく」「生き生きとしている」と感じた場面をいくつか思い浮かべ、その共通点を考えてみると「自分らしさ」が浮かび上がってくる。まさに「ありのままの自分」が映し出される瞬間であり、自己分析の際に押さえておきたいポイントである。

そして、内定を取るために重要なのは「自分に自信を持つこと。そして、自分のやってきたこと、自分の感じてきたことを言葉にして伝えようとする」とコメントした新入社員がいたが、効果的に言葉で伝えられるように準備していくことが、自己アピールへの準備となる。

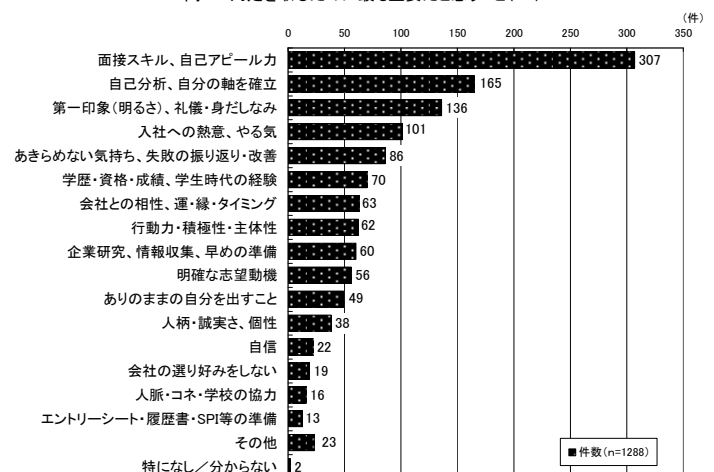
2. 就職活動以後は「経験」が価値になる

入社したい会社から内定を得るまでには時間がかかるかもしれない。また、就職活動が希望通りの実を結ぶという保証はない。しかし、就職活動は自分自身を再発見する機会であると同時に、社会人の価値基準へ切り替えをする過渡期だと捉えることができれば、準備の仕方も少し変わってくるのではないだろうか。

学卒後、会社などの組織の一員として働きはじめれば、目標を自分で掲げ、「やるべきこと」を自律的に行うことが求められる。そして「経験は成長につながる」という価値のもと、経験

の数が重んじられるようになる。就職活動は、次に控えている新たな世界へと足を踏み出す第一歩と考えれば、「どういう仕事に就きたいか」「自分の長所を活かせる職業はなにか」を熟考し、自律的に経験を積み重ねる活動そのものが、社会人になるための重要な準備であるといえよう。

問10 内定を取るために最も重要だと思うこと(FA)



以上

【本件に関するお問い合わせ先】社団法人 日本能率協会 経営研究所 (執筆: 長沼明子)

〒105-8522 東京都港区芝公園 3-1-22 TEL: 03-3434-6270 / Email: kadai@jma.or.jp

※取材のお問い合わせは、広報グループ (担当: 亀山 / TEL: 03-3434-8620) へお願いいたします。